



展示 PICK UP

■2F エレベーターホール/3F ブルーゾーン入口

～6/19(日)

日比谷音楽祭2022 本と音楽と



昨年に引き続き、6/4(土)・6/5(日)に日比谷公園で開催される「日比谷音楽祭2022」とのコラボ展示となります。音楽祭にゆかりのあるアーティストの方々にオススメ本を選出いただき、推薦文も添えていただきました(全ての本が展示されているわけではありませんが、選んでいただいた本は全て紹介しています)。音楽を好きな人が本に、本を好きな人が音楽にそれぞれ興味をもっていただければと思います。3FブルーゾーンのLibrarian's Pickでは、音楽全般に関する本を幅広く展示していますのでそちらも併せてご覧ください。

●アーティストおすすめ本の一部です。●



『塩狩峠』

- 三浦 綾子 著
- 新潮文庫
- 2005年



『きつねとぶどう』

- 坪田 譲治 作
- いもと ようこ 絵
- 2005年
- 金の星社

6月の展示情報

※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン 『千代田文人物語 ～町名由来板が導く文化の系譜～』(～7/15)

区内に設置されている町名由来板に書かれた文人たちと、その一部の執筆を手がけた現代の作家たちに焦点を当てました。彼らの作品や関連図書から、「文人」や千代田のまちの文化に触れてください。

3F ブルーゾーン 『MANGA』(～6/17)

日本の漫画の歴史を辿りながら、日本と海外の作品、アニメやコスプレなど漫画から生まれた文化に関する本、あわせて当館所蔵の漫画をご紹介します。世界でも人気のある日本の“MANGA”について改めて探る展示です。

3F グリーンゾーン 『緑の本棚』(～9/16) NEW!

自然や生命を象徴する色である「緑」。見る人の心を穏やかにし許容や安心感を与えるこの色は、許可や安全を示すサインにも使われます。日本では青と同一視もされてきたこの色が一体どのような色なのか、連想される様々な事柄から新たな「緑」を再発見する展示です。

《1階特別展》

鹿島茂コレクション2 『稀書探訪』の旅 関連展示

～7/17(日)

■2F パープルゾーン 三角台



1階特別展に併せて、フランス文学者 鹿島茂氏の著作を展示しています。また、前期(～6/5)はアール・デコ様式のデザイン、古書、挿絵本やイラストレーションに関する本を、後期(6/6～7/17)は文学を中心に19世紀フランスの文化、社会についての本もご紹介します。フランスの稀少な本の世界をご覧ください。特別展と共に、是非お楽しみください。

1階特別展に併せて、フランス文学者 鹿島茂氏の著作を展示しています。また、前期(～6/5)はアール・デコ様式のデザイン、古書、挿絵本やイラストレーションに関する本を、後期(6/6～7/17)は文学を中心に19世紀フランスの文化、社会についての本もご紹介します。フランスの稀少な本の世界をご覧ください。特別展と共に、是非お楽しみください。



古書や読書、パリに関する本を中心に鹿島茂氏の著作を幅広く集めました。

↑ 建築など日本の代表的なアール・デコ様式のデザインにも注目しています。※前期(～6/5)の様子

■3F エレベーターホール



今回の特別展はANA機内誌「翼の王国」の連載『稀書探訪』から生まれました。そこで図書フロアでは「機内誌」をメディアとして注目し、『稀書探訪』が連載された当時のバックナンバーや最近の機内誌を旅や飛行機の本とともに並べます。空の旅気分をご覧ください。(協力:航空図書館)

おすすめします! 図書フロアスタッフの推薦本をご紹介します。

ドキュメント戦争広告代理店

●高木 徹 著 ●講談社 ●2002年



ボスニア紛争の裏で繰り広げられたPR合戦を克明に描いたノンフィクション。アメリカのPR会社の巧みな仕掛けによって国際世論が一方に傾いていく様は、現代社会において情報が大きな武器であることを示しています。いま、メディアに溢れているウクライナ情勢に関する様々な情報を、見極める手掛かりになるかもしれません。

す。も。ー。又

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

幕末から明治へ 西洋人が 出会った 日本

特別研究室 ● 企画展示

幕末から明治にかけて来日した西洋人が目にした日本は、彼らの生活様式とは全く異なる、新鮮で珍しい光景ばかりでした。今回の企画展示では特に庶民の生活を記録した蔵書を中心に所収の図版をパネル展示し、往来(街道)、娯楽、西洋人が描いた富士山、西洋と日本の仲介役であった通詞などから西洋人が出会った日本の姿を紹介します。

● 展示図書

『The capital of the Tycoon 1』(1863年)

『Illustrated travels: A record of discovery, geography, and adventure 6』(1870年代)

『日本その日その日 上・下』(1929年)

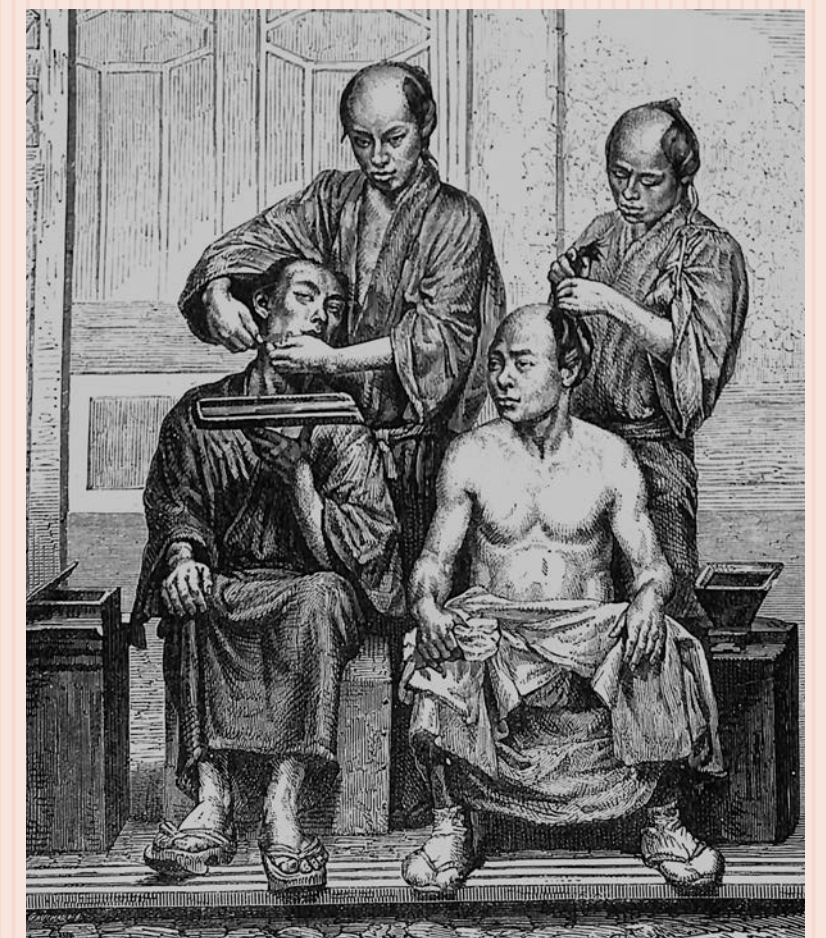
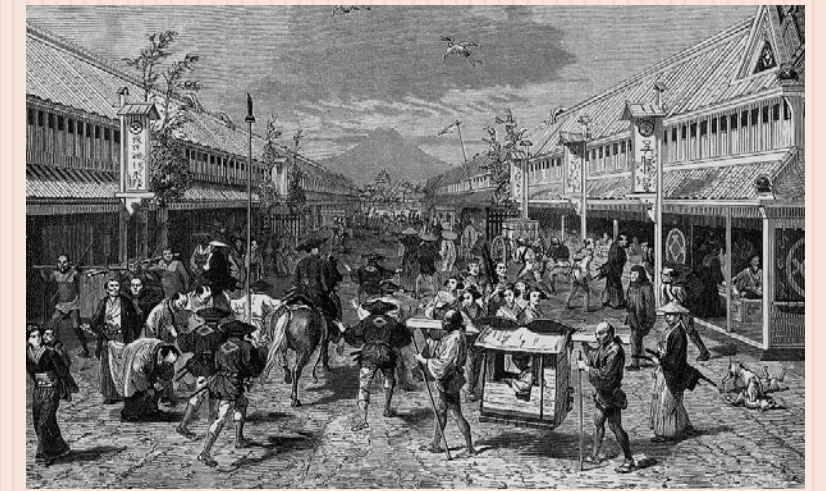
『米艦隊日本遠征録』(1856年)

開催中 >> 6月30日(木) 休館日 6月20日(月)

- 開室時間: 平日 10:00～20:00
- 土曜 10:00～18:00
- 日・祝 10:00～16:00

● 会場: 4階特別研究室 ● 入場無料

江戸 日本橋大通り (『Illustrated travels: A record of discovery, geography, and adventure 5』/H. W. Bates編/1870年代)

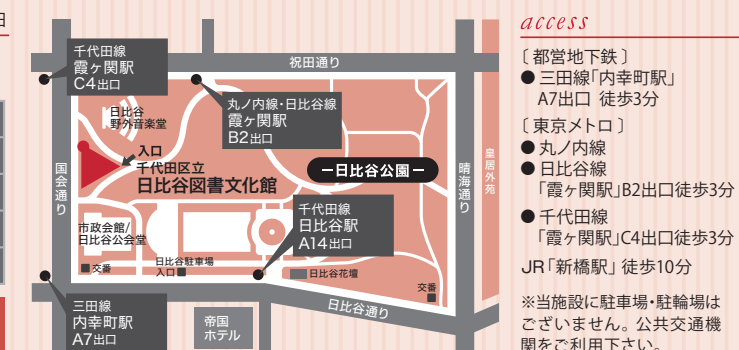


髪結い (『Illustrated travels: A record of discovery, geography, and adventure 5』/H. W. Bates編/1870年代)

calendar 開館時間: 平日10時～22時 土曜10時～19時 日祝10時～17時 休館日

2022年 6月							2022年 7月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	3	4	5	6	7	8	9
5	6	7	8	9	10	11	10	11	12	13	14	15	16
12	13	14	15	16	17	18	17	18	19	20	21	22	23
19	20	21	22	23	24	25	24	25	26	27	28	29	30
26	27	28	29	30									

掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報は、ホームページ等をご確認ください。



▶▶▶館内では常時マスクをご着用ください。入館の際は、手指消毒・検温のご協力をお願いします。

6・7月の講座

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

6/9 (木)他

〈日比谷オペラ塾〉
昭和音楽大学客員教授・小畑恒夫が語る短期集中講座(全2回)

ヴェルディのヒロインたち

講師：小畑 恒夫(昭和音楽大学客員教授)

ヴェルディが創造したヒロインのほとんどは強い意志をもつ女たちです。男たちにただ隷属するのではなく、自らの意志を通そうとする勇敢な女たちをヴェルディは次々に生み出しましたが、19世紀においてこれは特異なことではないでしょうか？今回はヴェルディのオペラにおけるソプラノの重要性と豊かな表現力に注目し19世紀の歌唱技法的な変化や、作曲家の精神的成熟との関連などもからめながら、彼のオペラの魅力を存分に語りたいと思います。

(主催：フェニーチェ劇場友の会、共催：日比谷図書文化館)

- 日時：前編：〈初期オペラ〉行動する女たち
〈『ナブッコ』『マクベス』などのヒロインから〉
6月9日(木)14:00～15:30(13:30開場)
後編：〈中～後期オペラ〉耐える女たち
〈『アイーダ』『オテッロ』などのヒロインから〉
6月23日(木)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回60名
- 参加費：各回1500円

6/16 (木)

古書で紐解く近現代史セミナー 第40回

女性旅行作家

イザベラ・バードはどのように作られたか—1878(明治11)年の初来日前後まで

講師：大野 純子(大正大学文学部日本文学科専任講師)

イザベラ・バードは1831年に生まれ、大英帝国の絶頂期に大人になった真正のヴィクトリアンです。彼女がこの時代の何を享受できたのか、また個人的な生育環境がキャリアにどう影響したのかを見ていきます。レディ・トラベラーとしては遅咲きだったバードがなぜ日本を訪問先を選んだのか、その準備をどのように行ったかについてもご紹介いたします。

- 日時：6月16日(木)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名
- 参加費：1000円(千代田区民・学生500円)

※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。



ジュゼッペ・ヴェルディ



6/17 (金)

千代田区内ミュージアム連携企画 江戸歴史講座 第74回 江戸時代の捕者とお裁きの世界

講師：日比 佳代子(明治大学博物館学芸員(刑事部門担当))

皆さんは江戸時代の裁判というと、どういったイメージを思い浮かべるでしょうか。過酷な取り調べ？それとも人情味あふれる奉行のお裁き？そのイメージは小説やドラマで作りに上げられたものかもしれません。江戸時代の記録から明らかになった犯人捕縛の様相や裁判の仕組みをお話します。



「牢内深秘録」新入りのしゃくり(明治大学博物館所蔵)

- 日時：6月17日(金)19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円(千代田区民 500円)

7/7 (木)他

〈日比谷オペラ塾〉
日本ロッシェニ協会会長・水谷彰良が語る短期集中講座(全2回)

ベルカント・オペラの特質とその終焉 ～ロッシェニからベッリーニとドニゼッティへ～

講師：水谷 彰良(日本ロッシェニ協会会長)

日本ではロッシェニ、ベッリーニ、ドニゼッティの歌劇が“ベルカント・オペラ”と一括りにされますが、ロッシェニとその後継者としては、声と役の関係性、音楽の様式、ドラマトゥルギーが歴然と異なります。この講座ではベルカントの特質を歴史的見地で明らかにし、ベッリーニとドニゼッティがロッシェニの様式を脱して、ロマンティックな歌劇に移行するプロセスを検証します。

(主催：フェニーチェ劇場友の会、共催：日比谷図書文化館)

- 日時：前編：ベルカント・オペラとは何か
—ロッシェニの作品から
7月7日(木)14:00～15:30(13:30開場)
後編：ベッリーニとドニゼッティ
—イタリヤ・ロマン派歌劇の誕生
7月21日(木)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回60名 ■ 参加費：各回1500円



ジョアキーノ・アントニーオ・ロッシェニ(1792-1868)

7/9 (土)

千代田区民講座 今こそ二宮金次郎の報徳仕法を

講師：武田 祐樹(株式会社 映画二宮金次郎製作委員会事務局)

様々な災害により人口が減少し、経済が低迷していた江戸後期。その中で登場したのが二宮金次郎です。この講座では、二宮金次郎が荒地を蘇らせて復興に導いた“仕法”についてお話します。(主催：NPO法人 神田雑学大学、共催：日比谷図書文化館)

- 日時：7月9日(土)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：無料 ※千代田区民は 5月25日(水)から、区民以外は6月1日(水)から受付開始。



7/28 (木)

変化の時代と「平民宰相 原敬」 —明治維新、大正デモクラシーから現代へ—

講師：清水 唯一朗(慶應義塾大学総合政策学部教授兼大学院政策・メディア研究科委員)

100年前、日本は政治熱の高まりと第一次世界大戦による激変に晒されていました。帝国の時代が終わり、民主主義の時代がはじまります。この舵取りに当たったのが「平民宰相」原敬です。彼らは何にどう取り組んだのでしょうか。そこから現在に至る日本政治の長所と短所を理解する入口を見出していきます。



原敬総裁生前最後の写真 大正10年(1921年) 川村数郎述『一山秘話』/1929年(日比谷図書文化館 特別研究室所蔵)

- 日時：7月28日(木)19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：40名
- 参加費：1000円

開催中!

5月20日(金)～特別展「鹿島茂コレクション2『稀書探訪』の旅」が始まりました! 日比谷図書文化館では2019年秋に「鹿島茂コレクション・アール・デコの造本芸術 高級挿絵本の世界」を開催し、多くの方にアール・デコの造本芸術の優美な世界をご覧いただきました。今回は第2弾として、19世紀ロマン主義時代のイラストレーターによる挿絵本や、19世紀を中心とする地誌・風俗画、風刺画の入った新聞、モードのグラフィック資料など稀少な書籍や資料をご覧いただけます。これらは、仏学者・鹿島茂氏が2007年4月から2019年の3月までANA機内誌「翼の王国」の中で紹介されたものです。毎月1冊、計144冊を軽妙な語り口で綴られたテキストと魅惑的な写真で展開された「稀書探訪」。空の旅から日比谷の地上へと降り立ったフランスの稀少古書の世界を心ゆくまでお楽しみください。

《展示構成》

- グランヴィルと同時代のイラストレーターたち
- 19世紀のモード新聞度ファッションアルバム
- パリの景観図
- パリ風俗観察集
- 絵入り風刺新聞とカリカチュール・アルバム
- アール・ヌーヴォー、アール・デコ期の挿絵本、同時代のグラフィック資料
- 絵本・児童書
- 絵入り風刺新聞・雑誌以外のグラフィック新聞・雑誌
- 挿絵入り小説と図版入り博物学書

特別展 鹿島茂コレクション2 『稀書探訪』の旅

『ラ・ジュネス・イリュストレ』子供向け漫画新聞、パンジャマン・ラビエ他画、1903-1935年、A.ファイヤール書店 Photo: ©Nao KASHIMA (NOEMA Inc. JAPAN)



開催中～7/17(日)〈休館日〉6月20日(月)

《前後期一部展示替えあり》

- ◆ 前期：5月20日(金)～6月19日(日) ◆ 後期：6月21日(火)～7月17日(日)
- ◆ 開室時間：月～木・土：10時～19時、金：10時～20時、日・祝：10時～17時(入室は閉室の30分前まで) ◆ 会場：日比谷図書文化館1階特別展示室(日比谷公園1-4) ◆ 観覧料：一般300円、大学・高校生200円、千代田区民・中学生以下の方・障害者手帳などをお持ちの方とその付き添いの方1名は無料(各種証明書の提示が必要) ◆ 主催：千代田区立日比谷図書文化館 ◆ 協力：平凡社、練馬区立美術館、群馬県立館林美術館、ノエマ

鹿島茂(かしましげる)プロフィール

フランス文学者。元明治大学教授。専門は19世紀フランス文学。1949年、横浜市生まれ。1973年東京大学仏文科卒業。1978年同大学大学院人文科学研究科博士課程単位習得満期退学。元明治大学国際日本学部教授。『職業別「パリ風俗」で読売文学賞評論・伝記賞を受賞するなど数多くの受賞歴がある。膨大な古書コレクションを有し、東京都港区に書斎スタジオ「NOEMA images STUDIO」を開設。近著に「日本が生んだ偉大なる経営イノベーター 小林一三」(中央公論新社)、『フランス史』(講談社)などがある。

From Chiyoda Public Library

千代田図書館

ありがとう岩波ホール [第2部]

今年7月、54年の歴史に幕を下ろす神保町の映画館「岩波ホール」は、これまでに270作品以上の作品を上映し、ミニシアターの草分け的存在として日本の映画館文化に多くの影響を与えてきました。3期に分けて行う本展では、岩波ホールからお借りした資料などを展示し、その歴史を振り返ります。現在開催中の第2部では、年代別にいくつかの上映作品を紹介するとともに、岩波ホールスタッフの思い出などをパネルで展示します。



- ▶ 会期：開催中～6月25日(土)
- ▶ 場所：千代田図書館9階 地域連携コーナー
- ※第3部(6月27日～7月23日)では、歴代上映作品観客動員ベスト10の紹介も行います。

日比谷図書文化館でも 展示を行います!

〈期間〉
2022年6月21日(火)
～7月29日(金)

〈場所〉
2階エレベーターホール

※千代田図書館で開催した「第1部」のパネルなどを展示します。